

～読んでみない？こんな本～

ポケットのたからもの

レベッカ・コーディル文 三木卓訳 リブリオ出版



ジェイは9月から小学校へ入学する6歳の男の子で、谷間の農場に住んでいます。8月の終わり頃のある日、いつものようにジェイは離れた丘にある牧場へ出かけました。シダの模様をついた川の石、インディアンの矢じり、模様をついた豆、ウシ達を連れて帰る途中に見つけたコオロギ。道々たくさんものを見つけたり捨てたりしながら、ジェイは自分のポケットに入れていきます。そしてそのコオロギを新学期最初の日にポケットへ入れて学校へ行きました。リ…リ…リ…。コオロギはポケットの中で鳴きはじめ、スクールバスの中で上級生にからかわれます。教室でもコオロギは鳴いてしまい、先生からポケットの中のものを出すよう言われるのですが…。

ジェイはあまり多く話しません。けれどもその少ない言葉や文章からは、回り道する川や原っぱの気持ちよさやジェイが捕まえたコオロギをととても大切にしているのが伝わってきます。コオロギを出すよう言われ、うまく気持ちを伝えられないジェイに先生が気づき、ジェイがどれだけコオロギを大切にしているか、みんなに分るようなはからいをしてくれる場面では、こちらもほっとした気持ちになります。明日からジェイはコオロギを連れて行かなくとも元気に学校に行くことでしょう。みなさんは夏休みにどんな宝物を見つけましたか？